

2020年12月期 決算短信〔IFRS〕(連結)

2021年2月5日

上場会社名 クックパッド株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2193 URL <https://info.cookpad.com/>
 代表者 (役職名) 代表執行役 (氏名) 岩田 林平
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役 (氏名) 犬飼 茂利男 (TEL) 03-6368-1000
 定時株主総会開催予定日 2021年3月23日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2021年3月24日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期の連結業績 (2020年1月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		当期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期	11,095	△5.6	151	△50.6	134	△49.9	137	—	405	—	△176	—
2019年12月期	11,753	△1.0	306	△81.6	269	△81.4	△1,353	—	△968	—	△1,158	—

	基本的1株当たり 当期利益	希薄化後1株当 り当期利益	親会社所有者帰属 持分当期利益率	資産合計税引前利 益率	売上収益営業利益 率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年12月期	3.77	3.77	1.7	0.5	1.4
2019年12月期	△9.01	△9.01	—	1.0	2.6

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期	26,664	24,665	23,475	88.0	218.16
2019年12月期	27,205	24,821	23,363	85.9	217.30

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年12月期	610	△166	△428	22,685
2019年12月期	1,024	△157	△420	23,105

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者 帰属持分配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2021年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00		—	

3. 2021年12月期の連結業績予想 (2021年1月1日～2021年12月31日)

当社グループは、日本を含む世界中の人々に向けて「毎日の料理を楽しみにする」サービスを提供するべく積極的に投資を行っていく所存です。その投資の時期や金額の規模については、事業を取り巻く環境等の変化に応じて機動的に判断していく想定です。このため、2021年12月期の連結業績予想については、合理的に算定することが困難であるため、記載していません。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更： 無
 ② ①以外の会計方針の変更： 無
 ③ 会計上の見積りの変更： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期	107,429,400株	2019年12月期	107,429,400株
② 期末自己株式数	2020年12月期	4,011株	2019年12月期	3,961株
③ 期中平均株式数	2020年12月期	107,425,401株	2019年12月期	107,425,439株

(参考) 個別業績の概要

1. 2020年12月期の個別業績（2020年1月1日～2020年12月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期	10,649	△6.3	733	△58.4	605	△66.8	406	—
2019年12月期	11,363	△6.5	1,762	△65.8	1,822	△63.5	△57	—
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年12月期	3.78		3.78					
2019年12月期	△0.53		—					

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
2020年12月期	27,314		25,901		94.7		240.74	
2019年12月期	26,685		25,474		95.4		236.96	

(参考) 自己資本 2020年12月期 25,862百万円 2019年12月期 25,455百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(連結業績予想について)

サマリー情報「3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）」に掲げた理由から、業績予想については記載していません。

(決算説明会資料について)

決算短信に加えて、「2020年12月期決算説明会」のプレゼンテーション動画や説明会の資料は、当期決算短信の適時開示後、当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	4
(5) 利益配分に関する基本方針	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結財政状態計算書	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結持分変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 継続企業の前提に関する注記	12
(6) 連結財務諸表に関する注記事項	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

2020年12月期連結会計年度（2020年1月1日～2020年12月31日）の業績は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	前期比
売上収益	11,753	11,095	△5.6%
営業利益	306	151	△50.6%
税引前当期利益	269	134	△49.9%
親会社の所有者に帰属する 当期利益(△損失)	△968	405	－%

当社グループは「毎日の料理を楽しむにする」というミッションの下、日本のみならず世界中の料理のつくり手を増やすべく、料理に関する様々な課題解決に向けた積極的な投資を行っています。このミッションについて、当社グループの事業活動の目的・存在意義を明確にするため、定款に「当社は、『毎日の料理を楽しむにする』ために存在し、これをミッションとする。」「世界中のすべての家庭において、毎日の料理が楽しみになった時、当社は解散する。」という記載をしています。

世界中の人々の生活は資本主義体制の中で非常に豊かになりました。貧困に悩む人は減り、医療技術の革新により人類の寿命は長くなりました。しかしながら、生活は豊かになりましたが、肥満や生活習慣病、バーチャルな人間関係の偏重がもたらす心の病は増加しました。また、「地球」の健康という意味でも、CO2排出量の増加、オゾン層の破壊、土壌や海洋の自浄作用を超えた汚染等大きな犠牲を払ってきました。

外食やデリバリーの普及によって、安くて美味しいものが手軽に食べられるようになりましたが、それらの食品を流通させるために、多くの森林が伐採され、ゴミも増え続けています。結局、今まであった問題を解決する中で、また新たな問題を作っているに過ぎないのではないかと当社グループは考えています。

ひとの健康に必要なものは、食事、運動、睡眠といわれています。世界でもっとも頻度高く行われている社会活動は、家族での食事です。つまり食は、地球にも、ひとにも、社会にも大きな影響を与えているといえます。この食の良し悪しが地球と、ひとと、社会のこれからの分岐点になると思っています。

当社グループは、食の世界を良くするには、「つくり手を増やすこと」が重要だと考えています。資本主義社会では、どうしても利益の追求が優先され、結果、地球の未来を犠牲にすることが多くなりますが、つくり手になると様々な「気づき」が増え、より正しいと思う考えに基づいて「自ら変える力」が強くなります。「つくり手」で居続けてもらうためには、料理が楽しみに、それも、毎日楽しみになる仕組みづくりが必要だと思うのです。料理をもっとクリエイティブで楽しいものにしたい。「つくること」をワクワク楽しいことにしたい。「作業」ではなくどンドンうまくなるものにしたい。料理をとおして、他の人とのつながりが楽しみとなり増えていくようにしたい。そんな風に考えています。世界中の70億人の中には、すでに料理を楽しんでいる「つくり手」がたくさんいます。そのひとたちのエネルギーや、知恵や、思いや、気持ちが人々を励まし助けになるようなコミュニティをつくりたいと思っています。当社グループは地球、ひと、社会、の健康を「毎日の料理を楽しむにする」ことによって実現していきます。

当社グループは、国内においては、料理レシピ検索・投稿サービス「クックパッド」をはじめ、買い物をもっと自由にする生鮮食品EC「クックパッドマート」、料理が楽しくなるマルシェアプリ「Komerco」、料理動画サイネージ「cookpad store TV」や、有名人と一緒に料理を楽しめる「cookpadLive」等の運営を行っています。海外においては、「クックパッド」のグローバルプラットフォームを、世界75カ国、33言語（日本を除く）で展開しています。

当連結会計年度は新型コロナウイルス感染症の流行で、国内外が未曾有の危機に直面することとなりました。このような環境の中、国内では、学校休校やリモートワークの推奨により料理をする機会が増えた人への支援として、クックパッドプレミアムサービスの機能の一部である「人気順検索」を無料開放、利用者の皆様から寄せられたアイデアや発見を集約して提供する等の支援を行いました。当社サービスが「人々の役に立つためには」、「日常生活の一部になるためには」ということを、ここまで意識したことはなかったように思います。今後当社は、世界中の人々の「毎日の料理を楽しむにする」を実現することで、企業価値の向上を目指し邁進してまいります。

これらの結果、当連結会計年度における売上収益は11,095百万円（前期比5.6%減）となりました。これは主にその他売上において、通信キャリアとのレベニューシェア型の売上収益がサービス終了に伴い減少したこと、及び国内レシピサービス広告売上において、ネットワーク広告の販売単価が下落し、売上収益が減少したことによります。販売費及び一般管理費は10,604百万円（前期比2.3%増）となりました。人件費の一部を売上原価に計上したことに加えて、新型コロナウイルスの影響により旅費交通費や研修費が減少したものの、新規事業にかかる人員数や費用が増加したことによります。その他営業収益において、子会社清算に伴い為替換算調整勘定取崩益の計上を行った他、その他営業費用においては前連結会計年度に計上したのれんの減損損失を計上しなかったことにより、営業利益は151百万円（前期比50.6%減）となりました。税引前当期利益は134百万円（前期比49.9%減）、親会社の所有者に帰属する当期利益は、法人税等を計上した一方で、繰延税金費用の減少及びCookpadTV株式会社において非支配持分に帰属する当期損失が発生したことにより、405百万円となりました。

当社グループは、「毎日の料理を楽しむにきる事業」の単一セグメントであります。売上収益の内訳は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	前期比
毎日の料理を楽しむにきる事業	11,753	11,095	△5.6%
国内レシピサービス会員売上	7,378	7,323	△0.7%
国内レシピサービス広告売上	3,016	2,818	△6.6%
その他売上	1,358	953	△29.8%

当連結会計年度における国内レシピサービス会員売上は7,323百万円（前期比0.7%減）となりました。新型コロナウイルス感染拡大期に行ったプレミアムサービス入会無料施策は好調だったものの、有料会員への流入が限定的であったこと等によります。

当連結会計年度における国内レシピサービス広告売上は2,818百万円（前期比6.6%減）となりました。「クックパッド」に掲載するバナー広告の売上は増加したものの、ネットワーク広告が、販売数、単価ともに下落したこと等によります。

当連結会計年度におけるその他売上は、953百万円（前期比29.8%減）となりました。これは主に通信キャリアとのレベニューシェア型の売上収益が減少したこと等によります。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ540百万円減少し、26,664百万円となりました。このうち、流動資産は250百万円減少し、25,161百万円となり、非流動資産は290百万円減少し、1,502百万円となりました。

これらの増減は主に、流動資産については、主に為替の円高影響等により現金及び現金同等物が419百万円減少したことによるものです。非流動資産については、減価償却等により有形固定資産が401百万円減少したことによるものです。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ384百万円減少し、1,999百万円となりました。このうち、流動負債は46百万円減少し、1,382百万円となり、非流動負債は337百万円減少し、617百万円となりました。

これらの増減は主に、非流動負債については、リース負債の返済により、リース負債が356百万円減少したことによるものです。

(資本)

当連結会計年度末における資本合計は、前連結会計年度末に比べ156百万円減少し、24,665百万円となりました。これは主に、為替の円高影響等によりその他の資本の構成要素が293百万円減少したこと、非支配持分が268百万円減少したこと及び利益剰余金が405百万円増加したことによるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ419百万円減少し、22,685百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は、610百万円となりました。これは主に、税引前当期利益134百万円、減価償却費及び償却費540百万円を計上した一方で、営業債権及びその他の債権が250百万円増加したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は、166百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出184百万円が生じたことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は、428百万円となりました。リース負債の返済による支出388百万円が生じたことによるものです。

(4) 今後の見通し

当社グループは、日本を含む世界中の人々に向けて「毎日の料理を楽しむにする」サービスを提供するべく積極的に投資を行っていく所存です。その投資の時期や金額の規模については、事業を取り巻く環境等の変化に応じて機動的に判断していく想定です。このため、2021年12月期の連結業績予想については、合理的に算定することが困難であるため、開示を行っていません。

(5) 利益配分に関する基本方針

当社は、2017年からの10年をさらなる大きな成長のための事業基盤創りに再度注力する「投資フェーズ」としています。従って、事業上獲得した資金をサービス開発、ユーザーベース獲得、ブランド構築等の事業拡大のための投資に充当することを優先するため、剰余金の配当は行わない方針です。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、「毎日の料理を楽しむにする」を企業理念とし、日本だけでなく、世界中の人々に向けて世界各国の料理を楽しむにするサービスを提供するべく、世界展開に注力しています。このような状況を踏まえ、財務情報の国際的な比較可能性の向上や開示の拡充により、国内外の株主・投資家などの様々なステークホルダーの皆さまの利便性を高めるため、国際会計基準を適用しています。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当連結会計年度 (2020年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	23,105,395	22,685,528
営業債権及びその他の債権	1,820,744	2,065,144
その他の金融資産	26,560	6,166
棚卸資産	24,641	32,443
その他の流動資産	434,718	372,581
流動資産合計	25,412,057	25,161,862
非流動資産		
有形固定資産	923,150	521,760
のれん	140,920	140,920
無形資産	334,869	262,003
その他の金融資産	314,692	295,944
繰延税金資産	49,780	271,683
その他の非流動資産	29,961	10,634
非流動資産合計	1,793,372	1,502,944
資産合計	27,205,429	26,664,806

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当連結会計年度 (2020年12月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
リース負債	385,151	288,712
営業債務及びその他の債務	715,170	765,137
その他の金融負債	51,765	42,259
未払法人所得税等	6,015	8,455
その他の流動負債	270,647	277,441
流動負債合計	1,428,749	1,382,005
非流動負債		
借入金	40,000	—
リース負債	721,624	365,323
その他の債務	15,726	15,324
引当金	173,022	236,654
繰延税金負債	4,787	—
非流動負債合計	955,159	617,301
負債合計	2,383,908	1,999,306
資本		
資本金	5,286,015	5,286,015
資本剰余金	7,194,224	7,194,224
利益剰余金	11,112,155	11,517,831
自己株式	△2,008	△2,022
その他の資本の構成要素	△227,190	△520,558
親会社の所有者に帰属する持分合計	23,363,196	23,475,489
非支配持分	1,458,326	1,190,011
資本合計	24,821,521	24,665,500
負債及び資本合計	27,205,429	26,664,806

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
売上収益	11,753,448	11,095,929
売上原価	△216,086	△418,066
売上総利益	11,537,362	10,677,863
販売費及び一般管理費	△10,367,695	△10,604,716
その他の収益	14,855	83,909
その他の費用	△877,654	△5,313
営業利益	306,867	151,743
金融収益	10,946	8,083
金融費用	△48,735	△24,888
税引前当期利益	269,079	134,938
法人所得税費用	△1,622,097	2,423
当期利益 (△損失)	△1,353,018	137,361
当期利益 (△損失) の帰属		
親会社の所有者	△968,724	405,676
非支配持分	△384,294	△268,314
当期利益 (△損失)	△1,353,018	137,361
1株当たり当期利益 (△損失)		
基本的1株当たり当期利益 (△損失)	△9.01	3.77
希薄化後1株当たり当期利益 (△損失)	△9.01	3.77

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
当期利益 (△損失)	△1,353,018	137,361
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて測定する金融商品の公正価値の純変動	—	△2,947
純損益に振り替えられることのない項目合計	—	△2,947
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	194,264	△311,026
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	194,264	△311,026
税引後その他の包括利益	194,264	△313,973
当期包括利益	△1,158,754	△176,611
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△774,460	91,703
非支配持分	△384,294	△268,314
当期包括利益	△1,158,754	△176,611

(3) 連結持分変動計算書

前連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	親会社の所有者に帰属する持分合計		
2019年1月1日時点の残高	5,286,015	7,194,224	12,428,820	△2,008	△434,304	24,472,747	1,842,619	26,315,367
会計方針の変更の影響	—	—	△347,941	—	—	△347,941	—	△347,941
2019年1月1日時点の再表示後残高	5,286,015	7,194,224	12,080,879	△2,008	△434,304	24,124,806	1,842,619	25,967,426
当期利益(△損失)	—	—	△968,724	—	—	△968,724	△384,294	△1,353,018
その他の包括利益	—	—	—	—	194,264	194,264	—	194,264
当期包括利益合計	—	—	△968,724	—	194,264	△774,460	△384,294	△1,158,754
株式報酬取引	—	—	—	—	12,850	12,850	—	12,850
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	—
所有者との取引額合計	—	—	—	—	12,850	12,850	—	12,850
2019年12月31日時点の残高	5,286,015	7,194,224	11,112,155	△2,008	△227,190	23,363,196	1,458,326	24,821,521

当連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	親会社の所有者に帰属する持分合計		
2020年1月1日時点の残高	5,286,015	7,194,224	11,112,155	△2,008	△227,190	23,363,196	1,458,326	24,821,521
会計方針の変更の影響	—	—	—	—	—	—	—	—
2019年1月1日時点の再表示後残高	5,286,015	7,194,224	11,112,155	△2,008	△227,190	23,363,196	1,458,326	24,821,521
当期利益	—	—	405,676	—	—	405,676	△268,314	137,361
その他の包括利益	—	—	—	—	△313,973	△313,973	—	△313,973
当期包括利益合計	—	—	405,676	—	△313,973	91,703	△268,314	△176,611
株式報酬取引	—	—	—	—	20,604	20,604	—	20,604
自己株式の取得	—	—	—	△14	—	△14	—	△14
所有者との取引額合計	—	—	—	△14	20,604	20,590	—	20,590
2020年12月31日時点の残高	5,286,015	7,194,224	11,517,831	△2,022	△520,558	23,475,489	1,190,011	24,665,500

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期利益	269,079	134,938
減損損失	868,013	69,556
減価償却費及び償却費	602,905	540,125
金融収益及び金融費用(△は益)	41,360	95,146
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	250,379	△250,963
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	59,504	106,185
長期前払費用の増減額(△は増加)	85,230	19,326
その他	331,137	55,981
小計	2,507,605	770,293
利息及び配当金の受取額	10,946	8,083
利息の支払額	△7,513	△8,322
法人所得税の支払額又は還付額(△は支払)	△1,486,885	△159,312
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,024,154	610,742
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△109,954	△184,626
無形資産の取得による支出	△56,232	△32,053
子会社の取得による支出	△20,729	△53,282
事業譲受による支出	△43,769	—
有形固定資産の売却による収入	—	98,161
その他	72,978	5,548
投資活動によるキャッシュ・フロー	△157,706	△166,252

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	—	△40,000
リース負債の返済による支出	△420,093	△388,176
自己株式の取得による支出	—	△14
財務活動によるキャッシュ・フロー	△420,093	△428,189
現金及び現金同等物の増加額	446,355	16,301
現金及び現金同等物の期首残高	22,756,245	23,105,395
現金及び現金同等物の為替変動による影響	△97,205	△436,167
現金及び現金同等物の期末残高	23,105,395	22,685,528

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) 連結財務諸表に関する注記事項

1. 報告企業

クックパッド株式会社(以下、当社)は日本に所在する企業です。本連結財務諸表は2020年12月31日を期末日とし、当社及びその子会社(以下、当社グループ)により構成されています。

当社グループは、「毎日の料理を楽しみにする」を企業理念とし、インターネット上で料理レシピの投稿・検索等が可能な「クックパッド」を中心に事業展開しています。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号。以下、連結財務諸表規則)第1条の2に定める要件を満たしており、「指定国際会計基準特定会社」に該当しますので、同第93条の規定により、IFRSに準拠して連結財務諸表を作成しています。

(2) 測定的基础

当社グループの連結財務諸表は、公正価値で測定されている特定の金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しています。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、千円未満を四捨五入して表示しています。

3. 重要な会計方針

本連結財務諸表の作成に適用した重要な会計方針は、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の金額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行うことが義務付けられています。実際の業績は、これらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直します。会計上の見積りの変更による影響は、その見積りを変更した会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識します。

経営者が行った連結財務諸表の金額に重要な影響を与える見積り及び判断は、前連結会計年度の連結財務諸表と同様です。

5. セグメント情報

当社グループは、「毎日の料理を楽しみにする事業」の単一セグメントとなるため、事業分野ごとの収益、損益及びその他項目の記載を省略しています。

6. 一株当たり利益

基本的1株当たり当期利益及び希薄化後1株当たり当期利益は以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
親会社の所有者に帰属する当期利益(△は損失) (千円)	△968,724	405,676
当期利益調整額(千円)	—	—
希薄化後1株当たり当期利益の計算に 使用する当期利益(△は損失)(千円)	△968,724	405,676
期中平均普通株式数(株)	107,425,439	107,425,401
普通株式増加数		
新株予約権(株)	8,627	18,935
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	107,434,066	107,444,336
基本的1株当たり当期利益(△は損失)(円)	△9.01	3.77
希薄化後1株当たり当期利益(△は損失)(円)	△9.01	3.77

7. 後発事象

該当事項はありません。